

名戸ヶ谷ビオトープだより

第 83 号 2020 年秋号

<http://nadogaya-biotope.com/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：小笠原 智 Tel 080-2259-4415



収穫の秋：稲刈りでーす

田んぼは相変わらずぬかるんで足運びが大変です



はざがけも腰にききます
(しっかり縛られていないと掛ける時にばらけるので大変です)

今年は名戸小の稲刈り学習も新型コロナの為、中止になったので会員のみでの作業になりました。9月6日の「手賀沼フォーラム協賛市民参加稲刈り」も雨で中止となりました。9日、13日、16日、19日で会員延べ40人(午前中半日)の参加がありました。うるち稲は一部倒伏もあり、猛暑の中での作業、お疲れ様でした。
(小笠原 智)

脱穀終わりました

今までの長雨が嘘のような快晴に恵まれた 10 月 23 日（水）待望の脱穀作業が行われました。当日は 9 時前から 12 名が参加しモチ米から始め途中おにぎりの昼食をとり、12 時過ぎには終了しました。雨のため稲架（はざ）がけの期間が長かったので、スズメに食べられた空っぽの籾殻もたくさん目につきましたがスズメもビオトープの構成メンバーと思えば腹も立ちません。終了後袋詰めされた籾は参加した会員の車に積み込まれて精米所に運ばれました。



お米は 88 回人手にかかってようやく出来上がると昔の人は言いましたが、実際、春の株踏みから田植・除草・稲刈り等々、その積み重ねで今日があるわけで、その間の日常の細やかな気配りなど担当の方々のご苦労は大変だったと思います。私は体調に自信がなく、全てパスさせてもらいました。せめて最後まで猫の手ほどでも手伝えればと参加しま

したが、集まれた皆さんは、細かい指示を待つまでもなく、自分の判断で効率よく作業を進められ、予想よりスピーディーに終了できたと思います。近年心配されている会員の高齢化によるビオトープの将来も何とか克服できそうな、私にとってそんな希望も持てる意義ある一日でした。（村川五郎）



晩秋のビオトープです

ホタル水路廻りはミゾソバの花で埋まりました

（小笠原 智）

脱穀作業を終えて



10月21日（水）秋晴れのお天気の中、朝からビオトープで刈り取りした稲の脱穀作業を行いました。モーターを利用した脱穀機と足踏み式脱穀機の2台を使用して、当日出席の会員の皆さんが一致協力して作業を行いました。予定以上に早く作業が進み、途中休憩をとりながらも12時過ぎに無事作業が終了しました。終了後に皆さんと一緒におにぎりを食べながら楽しいひと時を過ごしました。

今回、自分も足手まといになりながらも、干場から稲を運搬したり足踏み脱穀機で脱穀作業をさせていただいたりしました。慣れない作業でしたが、少しはお役に立てたのかなと思っております。普段から体を動かしていない自分にとっては足腰に疲れが出てしまい情けない限りでした。今回、自分達で脱穀したお米を精米していただけるのを楽しみに待っております。皆さんお疲れ様でした。

（倉林 高嗣）



今年のお米はオリジナル袋

秋のビオトープ散策

9月、天候を待ちながら満を持しての稲刈りに参加、手鎌を持って田んぼに入り、稲の束を刈り進んでいくと、何匹も飛び出してくるのはコバネイナゴです。たわわな稲をおいしく食べていたのでしょう。実りの恩恵をいただくのは、人間も虫も同じです。

すっかり刈り取られた田んぼから追いやられたイナゴたちは、あぜの雑草に集結しているようで、がさがたと歩くとやはりぴょんぴょんと逃げ出していきます。試しにバツタを見つけ次第捕らえてみると、ものの30分ほどでコバネイナゴは10数匹捕獲。ほかオンブバツタやクビキリギスも捕まえられましたが、コバネイナゴの数が抜きん出ていました。小学校の校庭や、公園などでは、ショウリョウバツタやクルマバツタモドキ、ツチイナゴなどをよく見かける代わりにそれほどコバネイナゴは見られません。昔はたくさん佃煮にして食べた、という体験を耳にしますが、稲作の文化の中で虫とのたたかいがありながらも、草むらにかいま見るイナゴの顔には、ほっとさせられるような愛らしさを感じます。



秋、雨が続いたあとの晴天の日には、生き物たちも日差しを待ちかねたように現れます。ミゾソバがうすいピンク色の花を一面に咲かせ、さまざまな虫たちを引き寄せます。

イチモンジセセリ、チャバネセセリなどは年に何度か発生するようですが、特に目立つ

のは秋です。ミゾソバの花の蜜を吸っていました。

また、モンシロチョウは春を呼ぶチョウのイメージですが、暑い夏を越えた今ごろ、またオスがメスを追いかけて、ひらひらと飛んでいます。これから残す幼虫が寒さに向かっていく中でも成長し、サナギで越冬できるように恋を急いでいるようにも見えます。



コバネイナゴたちも、よく見るとあちこちで交尾をしています。写真のイナゴは、私の目線よりも高い、ススキの茎の真ん中で、太陽の光を浴びながら堂々とペアでいました。なんともものどかな10月末の風景です。



どの時期もそうかもしれませんが、秋は特に、9月の終わり、10月半ば、そして11月と1~2週間経つだけで、がらりと景色が変わります。そこに生えている植物、暮らしている生き物の変化を目に見えて感じます。

残り少ない秋、まだまだビオトープ散策を楽しみたいと思います。(高橋 紀子)

秋の生態調査

10月7日(水) 曇り 気温23度 9:00～10:30
松清さん、高橋さん、小笠原さん、外川さん、倉岡さん、そして藤平の6名参加でした。朝方は晴れて次第に雲に覆われ温暖な日となりアキアカネ、シオカラトンボなどが多く飛び交い、オオスズメバチも水辺近くを飛び回っていました。カメラに撮るのも怖いものです。鳥類はスズメ、カルガモ、アオサギ、ヒヨドリなどを確認しています。捕獲網を持ち ABゾーンを回り捕獲したもの、カメラで撮ったものの名前を確認し、1時間半の調査を終えました。確認された個体種は45種で春の調査とほぼ同じです。皆さんの協力で引き続き環境保全維持はされております。(藤平 三郎)



昆虫類を探しています



名前を調査中



キアゲハ



シュレーゲルアオガエル

月例活動状況のお知らせ

9月から10月までの月例活動状況をお知らせします。11月は活動休みです。

9月19日(土)

稲刈り作業に終始した。この日は今にも降り出しそうな曇天の日であったが、11名の会員の協力により午前中無事に終了した。



稲刈り前のネット外し



参加者が多ければ捗るが



最後の追い込みです

10月11日(日)

定例活動予定日の17日(土)は、稲の脱穀作業を行う為に11日(日)に振り替えました。会員6名参加しゴミの収集、市道両脇の草刈り、A、Bゾーンの外来種セイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ、ツルマメ等を刈取りました。



Bゾーン
アメリカセンダングサの刈取り



Bゾーン
セイタカアワダチソウの刈取り



市道両脇の刈取り完了

新入会員紹介

倉岡 尊 さん

倉岡 尊(たかし)と申します。69才です。

25年前に市川から柏市名戸ヶ谷に引っ越してきました。柏レイソルの大ファンで、いつも応援に行っています。

名戸ヶ谷ビオトープは、散歩コースで毎日のように通っていました。小さな子供たちや家族ずれがザリガニ釣りをして、小鳥がさえずり、稲穂がみのり、素敵なところだと思っていました。ビオトープを守る会を知ったのは、たまたま知り合いが守る会の活動をしていた所に、散歩で通りかかり、その時に誘われたのがきっかけで、このような自然を残す手伝いが出来ればと思い、入会しました。

活動では、ブッシュや田んぼの草刈り、稲を守るネット張り等、作業に汗を流しました。農作業は初めてであり、今年はコロナ禍で、またかなり暑いので、休みながら作業を行っています。

先輩方になんでも聞いて微力ながら、お手伝いさせていただきます。

6月にはホタルの鑑賞もできましたし、作業後のお茶も美味しいですし、楽しみが一つ増えたと思っています。



12～2月の活動予定

- 12月 ●19日：12月定例活動日・大掃除
- 1月 ●16日：1月定例活動日
- 第19回定期総会は中止
- 2月 ●20日：2月定例活動日
- 日本アカガエル卵塊調査日

注) 詳細の日時・作業内容は担当幹事からメールにて連絡します。

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏駅東口より東武バス（5番乗り場）「名戸ヶ谷行き」「新柏行き」で「名戸ヶ谷病院前」下車
面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：161種（内、千葉県指定保護生物26種）

（2013年、年間を通じて観察した生きものの種類）